

別紙①
(表紙)

228mm

金沢市 定期予防接種券 (乳幼児期)(22枚)

保護者様

金沢市では生後2か月から始まる乳幼児期の定期予防接種(無料で受けられます)の接種券を冊子形式で発行しています。(Hib、小児用肺炎球菌、B型肝炎、ジフテリア・百日せき・不活化ポリオ・破傷風(四種混合)、BCG、麻しん風しん、水痘、日本脳炎の全22枚)
感染症の脅威からお子様を守るためかかりつけ医とご相談のうえ、計画的に接種をすすめましょ。

この冊子はすべての接種が終わるまで大切に保管しましょう。

金沢市 健康政策課 〒 920-8577 金沢市広域(丁目)1番1号
(電話)076-220-2701 (FAX)076-220-2231

種類	回数	1回目	2回目	3回目	追加
Hib(インフルエンザ菌b型)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小児用肺炎球菌		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B型肝炎		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
四種混合(ジフテリア・百日せき・不活化ポリオ/破傷風)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B C G		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
麻しん風しん(MR1期)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
水痘		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本脳炎第1期		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【接種場所】 金沢市の予防接種協力医療機関
 【接種時期】 通年
 【持ち物】 この冊子、母子健康手帳

*金沢市外へ転出された方は、この接種券はご使用いただけません。

114

太枠内印字あり

(裏紙)

2箇所針金留め
テープ留め

10mm

218mm

別紙① (表紙)

子どもの予防接種について

生まれる前に赤ちゃんがお母さんからもらった病気に対する免疫は、数か月もたてば弱くなってしまいます。そのため、乳幼児期には、様々な病気（感染症）にかかりますが、予防接種（ワクチン）の助けをかりて免疫をつくることにより、予防したり、症状を軽くできる病気もあります。予防接種を正しく理解してお子様の健康のために役立てましょう。

予防接種には、法律によって対象疾病、対象者や接種期間などが定められた定期の予防接種（無料）とそれ以外の希望者が費用を自己負担する任意の予防接種（一部助成あり）があります。

ワクチンによって接種間隔や接種開始時期が違います（3、4ページ参照）。お子様にあったスケジュールを立てて、よりよい時期に接種できるようにしましょう。

また、予防接種を受ける際には、この冊子（予防接種券）と母子健康手帳を持って、かかりつけ医（金沢市の予防接種協力医療機関※）で接種を受けるようにしましょう。

※金沢市の予防接種協力医療機関は、市のホームページからダウンロードできます。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/23030/yobousesshu/kodomonoyobousesshu.html>

1

金沢市の予防接種の受け方

①予防接種のスケジュールを立て
ましょう（次ページを参考にし
てください）

②予防接種についての説明書
（5～14ページ）を読みま
しょう

③医療機関を決めましょう
※金沢市の予防接種協力医療機
関はホームページからダウン
ロードできます

④お子さんの体調を確認しましよ
う（接種日の朝、体温を測り
ましょう）

⑤予防票（この冊子にある接種
券裏）に健康状態を記入しま
しょう

⑥予防接種を受けに行きましょう
持ち物：この冊子（定期予防接種券）
母子健康手帳

（注意）◎この冊子を使用できるのは、金沢市に住民票のある方に限ります。

◎予防接種券を紛失、破損された場合は、予防接種券を再交付します。母子健康手帳を持参のうえ、下記窓口までお越しください。

◎里帰り等の長期滞在により、石川県外での接種を希望される場合は、「予防接種実施依頼書」が必要ですので事前に金沢市健康政策課（予防接種専用電話 076-220-2701、FAX 076-220-2231）へご連絡ください。（平成26年度より、0歳児が石川県外で受けた定期予防接種の費用を助成する制度があります。）

【問い合わせ先】

金沢市健康政策課
金沢市広坂1丁目1番1号 電話 076-220-2701
FAX 076-220-2231

予防接種券の再発行などは以下の窓口でもできます。

泉野福祉健康センター 電話 076-242-1131
元町福祉健康センター 電話 076-251-0200
駅西福祉健康センター 電話 076-234-5103

2

別紙①
(表紙)

予防接種スケジュール

※接種スケジュールは、かかりつけ医と相談して立てましょう。

種類	ワクチン	標準的な接種開始時期・回数	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	2歳	3歳	4歳
定期予防接種	Hib (インフルエンザ型)	不活化 生後2か月4回		①	②	③								④			
	小児用肺炎球菌 (PCV13)	不活化 生後2か月4回		①	②	③								④			
	B型肝炎	不活化 生後2か月3回		①	②				③								
	四価混合 (DPT-IPV)	不活化 生後3か月4回			①	②	③							④			
	BCG	生 生後5か月1回					①										
	麻疹風しん (MR1期)	生 1歳1回												①			
	水痘	生 1歳2回												①	②		
任意予防接種	日本脳炎	不活化 3歳3回														①②	③
	おたふくかぜ	生 1歳1回												①			(注) 予防効果を確実にするためには2回接種
	ロタウイルス (経口)	生 2,3,4か月各1回	①	②													
	インフルエンザ	不活化 毎年2回															

不活化ワクチン → 接種間隔は6日以上あけて
 生ワクチン → 接種間隔は27日以上あけて
 ① 定期接種の接種可能な期間
 ② 接種の望ましい時期
 ③ 任意接種可能な期間
 ④ 接種の望ましい時期

同じワクチンを続けて接種する場合の接種間隔は、各予防接種の説明のページを参照してください。

乳幼児期に受ける定期予防接種

乳幼児期の予防接種	受ける時期と接種回数	ワクチン種別
Hib (インフルエンザ型)	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回：27日 (医師が認める場合は20日) 以上 (標準として27日～50日) の間隔をあけて3回接種 (生後12か月の前日までに完了) 追加：初回3回終了後、7か月以上 (標準として7か月～13か月) あけて1回接種 (注)	不活化ワクチン
	【標準的な接種パターン以外の場合】 ① 生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回：27日 (医師が認める場合は20日) 以上 (標準として27日～50日) の間隔をあけて2回接種 (生後12か月の前日までに完了) 追加：初回2回終了後、7か月以上 (標準として7か月～13か月) あけて1回接種 (注) ② 1歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合：1回接種	
小児用肺炎球菌	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回：27日以上の間隔をあけて3回接種 (生後24か月 (標準として生後12か月の前日までに完了)) 追加：初回3回終了後80日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に (生後12か月～15か月の前日までに標準的接種期間として) 1回接種 (注)	不活化ワクチン
	【標準的な接種パターン以外の場合】 ① 生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回：27日以上の間隔をあけて2回接種 (生後24か月 (標準として生後12か月の前日までに完了)) 追加：初回2回終了後80日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に1回接種 (注) ② 1歳の誕生日～2歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回：27日以上の間隔をあけて2回接種 ③ 2歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合：1回接種	
日本脳炎	1歳 生後12か月～24か月 (2歳の誕生日の前日) までに1回接種	生ワクチン
麻疹風しん (MR)	1期 生後3か月～90か月 (7歳6か月) の前日までに 初回：20日以上 (標準として20日～56日) の間隔をあけて3回接種 追加：1期初回 (3日) 終了後、5か月以上 (標準として1年～1年半) あけて1回接種	不活化ワクチン
水痘	1期 生後12か月～30か月 (3歳の誕生日の前日) までに 3か月以上 (標準として6か月から12か月まで) の間隔をあけて2回接種 ※1回目の標準的接種期間、生後12か月から生後15か月までです。	生ワクチン
日本脳炎	1期 生後36か月 (3歳7～90か月 (7歳6か月) の前日) までに 初回：8日以上 (標準として8日～28日) の間隔をあけて2回接種 追加：1期初回 (2日) 終了後、6か月以上 (標準としておおむね1年) あけて1回接種	不活化ワクチン

(注) Hibおよび小児用肺炎球菌は、接種開始年齢等によって接種回数異なります。接種回数、間隔などは接種票とよくご確認ください。

【周知方法】 個別通知
 【接種場所】 予防接種協力医療機関
 【接種時期】 毎年

◆他の予防接種との接種間隔 (別の種類の接種を行うまでの期間)
 生ワクチンを接種した場合：接種した日の翌日から起算して、27日以上あけます。
 不活化ワクチンを接種した場合：接種した日の翌日から起算して、6日以上あけます。

その他、任意予防接種として、おたふくかぜ、インフルエンザ、ロタウイルスなどがあります。

別紙①
(表紙)

< 予防接種を受けに行く前に >

注意しなければいけないこと

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。安全に予防接種が受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意のうえ、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

- ①当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わったところのないことを確認しましょう。
- ②説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に相談しましょう。
- ③母子健康手帳は必ず持って行きましょう。
- ④予防票は、接種する医師への大切な情報です。責任を持って記入しましょう。
- ⑤予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。

予防接種を受けることができないお子さん

- ①発熱（通常37.5℃以上）をしているお子さん
- ②重篤な急性疾患にかかっているお子さん
- ③その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシー（非常に強いアレルギー反応）を起こしたこ

とがあるお子さん

- ④外傷等によるケロイドのあるお子さん（BCG）
- ⑤その他医師が不適当な状態と判断した場合

予防接種を受ける際に注意を要するお子さん

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん
- ②過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる症状がみられたお子さん
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがあるお子さん
- ④過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全の方がいるお子さん
- ⑤ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん
- ⑥過去に結核患者との長期の接触があるお子さん及び結核にかかっている疑いのあるお子さん（BCG）
- ⑦湿疹のひどいお子さん（BCG）

5

< 接種後の注意 >

一般的注意事項

- ①予防接種を受けたあと30分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
- ②接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ④当日は、はげしい運動はさけましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

副反応が起こった場合

予防接種を受けたあと、まれに重い副反応が起こることがあります。接種局所のひどいはれ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診察を受けてください。お子さんの症状が予防接種後副反応報告基準に該当する場合は、医師から厚生労働省へ報告が行われます。

また、予防接種とは関係なく、接種と同じ時期にほかの感染症などがたまたま重なって何らかの症状が出ることもあります。（紛れ込み反応）

予防接種による健康被害救済制度について

- 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。
- 健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
- ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものが、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

6

別紙①
(表紙)

Hib(インフルエンザ菌b型)

☆不活化ワクチンです。

Hib(インフルエンザ菌b型) ワクチン

インフルエンザ菌は7種類に分類されますが、重症例は主にb型のため、ワクチンとしてもこのb型(乾燥ヘモフィルスb型ワクチン)が使われています。

H i bとは？

H i b(インフルエンザ菌b型)は乳幼児の髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症の原因となっています。H i bによる髄膜炎の発症者は、年間約400人で、約11%が死亡や後遺症を残すなど予後不良と推定されており、生後4か月から1歳までの乳児が過半数を占めています。

副反応

接種部位の発赤、はれ、しこりなどの局所反応があります。全身反応として、不機嫌、食欲不振、発熱などがみられます。副反応のほとんどは接種後2日後までに発現して、その後3日以内には消失しています。

- ★なお、アナフィラキシー様症状、けいれん、血小板減少性紫斑病等の重大な副反応が稀にみられることがあります。
- ★重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師にご相談ください。

小児用肺炎球菌

☆不活化ワクチンです。

小児用肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌による子どもの細菌性髄膜炎などを予防するために、子どもで重い病気を起こしやすい13の血清型のワクチン(13価肺炎球菌結合型ワクチン)が使われています。

肺炎球菌とは？

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。この菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに髄膜炎、肺炎、中耳炎といった病気を起こします。肺炎球菌による髄膜炎の発症者は、年間約150人で、死亡や後遺症を残すなど約21%が予後不良とされています。

副反応

接種部位の局所反応として発赤、はれ、しこりなどが認められます。全身的な副反応として、発熱、不機嫌、傾眠状態なども認められます。

対象年齢：生後2か月～5歳の前日まで
H i bワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンは、接種開始月齢等によって接種回数異なります。

H i b ワクチンの接種方法

接種開始月齢	初回接種(※)	追加接種	計	接種券の使い方	
生後2か月～7か月の前日 (標準的な接種パターン)	27日以上、標準的には56日までの間隔をあけて3回	【注】2回目、3回目が生後12か月の前日を超えた場合は接種できません。この場合の追加接種は(最後の初回接種後、27日以上の間隔をあけて)実施可能	初回接種後、7か月以上、標準的には13か月までの間隔をあけて1回	4回	1回目→2回目→3回目→追加
生後7か月～12か月の前日	27日以上、標準的には56日までの間隔をあけて2回	【注】2回目が生後12か月の前日を超えた場合は接種できません。この場合の追加接種は(1回目接種後、27日以上の間隔をあけて)実施可能		3回	1回目→2回目→追加
1歳～5歳の誕生日の前日	1回			1回	1回目のみ

(※) Hibの初回接種は、医師が必要と認めた場合には、20日以上の間隔をあけて接種できます。

小児用肺炎球菌ワクチンの接種方法

接種開始月齢	初回接種	追加接種	計	接種券の使い方	
生後2か月～7か月の前日 (標準的な接種パターン)	(標準的には生後12か月までに) 27日以上の間隔をあけて3回	【注】2回目、3回目が生後24か月の前日を超えた場合は接種できません。また、2回目の接種が生後12か月の前日を超えた場合は、3回目の接種はできません。追加接種は実施可能	生後12か月以降に、初回接種後60日以上の間隔をあけて1回接種(標準接種期間：生後12か月～15か月の前日)	4回	1回目→2回目→3回目→追加
生後7か月～12か月の前日	(標準的には生後12か月までに) 27日以上の間隔をあけて2回	【注】2回目が生後24か月の前日を超えた場合は接種できません。追加接種は実施可能	生後12か月以降に、初回終了後60日以上の間隔をあけて1回接種	3回	1回目→2回目→追加
1歳～2歳の誕生日の前日	60日以上の間隔をあけて2回			2回	1回目→2回目
2歳～5歳の誕生日の前日	1回			1回	1回目のみ

別紙①
(表紙)

B型肝炎

B型肝炎ワクチン

☆不活化ワクチンです。

対象年齢：生後12か月(1歳の誕生日の前日)まで

接種回数：3回

接種間隔：27日以上の間隔を置いて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔を置いて1回接種します。

標準的には生後2か月に達した時から生後9か月に至るまでの期間に接種を行います。

(生後2か月以降に1回目、生後3か月に2回目、生後7～8か月に3回目の接種を行います)

母子感染予防としてB型肝炎ワクチンを受けたお子さんは、定期予防接種の対象とはなりません。

B型肝炎とは

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合(この状態をキャリアといいます)があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうちの一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

感染は肝炎ウイルス(HBs抗原)陽性の母親から生まれた新生児、肝炎ウイルス陽性の血液に直接触れたような場合、肝炎ウイルス陽性者との性的接触などで生じます。

ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力(免疫)ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。

副反応

主なものは、倦怠感や注射部位の疼痛があります。一般的には重大なものは認められませんが、極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。

9

ジフテリア・百日せき・不活化ポリオ・破傷風(四種混合DPT-IPV)第1期

ジフテリア・百日せき・不活化ポリオ・破傷風混合ワクチン

☆不活化ワクチンです。

対象年齢：生後3か月～7歳6か月の前日まで

接種回数：初回3回+追加1回の計4回

接種間隔：20日以上(標準として20日～56日)の間隔をあけて初回3回接種後、6か月以上(標準として1年～1年半)の間隔をあけて1回(万一間隔があいてしまった場合は、接種医にご相談ください。)

※第2期として小学校6年生時にDT(ジフテリア・破傷風)二種混合ワクチンで1回接種を行います。

ジフテリアとは？

ジフテリア菌の飛沫感染(のど、鼻)で起こります。無症状の保菌者から感染することもあります。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などです。窒息死や、菌からの毒素で心筋障害や神経麻痺を起こすこともあります。

百日せきとは？

百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通の風邪のような症状からせきがひどくなり、笛を吹くような音が出ます。乳幼児はせきで呼吸ができず、唇が青くなったり、けいれんが起こることもあります。肺炎や脳症などの合併症を起こしたり、乳児では死亡することもあります。

四種混合DPT-IPV副反応

接種部位の紅斑、しこり、はれ、発熱が主な副反応で、接種後3日までにみられます。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師にご相談ください。

ポリオとは？

手や足の麻痺があらわれる感染症です。口の中から入ったポリオウイルスが腸の中で増え、便の中に排出されて他の人に感染していきます。感染者の大部分は無症状ですが、感染者の1,000～2,000人に1人に麻痺があらわれます。一部の人は、その麻痺は一生残ります。

破傷風とは？

土の中にいる破傷風菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体内で増えるとその毒素によって口が開けなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

10

別紙①
(表紙)

結核 (BCG)

BCGワクチン

★生ワクチンです。

対象年齢：1歳の誕生日の前日まで（標準的な接種期間は生後5か月～8か月になるまでです。）

接種回数：1回

効果：BCG接種により結核の発病を約4分の1に減らすことができ、その効果は10～15年持続されます。特に乳幼児における結核性髄膜炎や粟粒結核などの重篤な結核の発病予防には高い効果があります。

結核とは？

結核菌の感染で起こります。我が国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人を超える患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

副反応

接種後1か月前後から接種した側のわきの下のリンパ節がまれにはれることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大きくはれたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみがでることがあります。このようなときは接種医にご相談ください。

接種後の針痕部位の変化

接種後10日頃に接種部位に赤いポツポツができ、一部にうみがでることがあります。このような反応は接種後1か月頃が最も強くなりますが、その後、かさぶたができて、接種後3か月頃までには治り、小さな傷あとを残すだけとなります。

これは異常反応ではなく、よくある反応です。

コッホ現象とは？

既に結核に感染したお子さんにBCGを接種した場合、早ければ接種後1,2日、遅くとも10日以内に接種部位の発赤やはれ、化膿等が起こることがあります。これを「コッホ現象」といい、通常、2週間～4週間後に治癒します。接種後1,2日の反応に対応できるように、BCG接種は週の前半（月～水曜日）に実施するようにしましょう。

「コッホ現象」が見られたときは、周囲に結核患者がいる場合も考えられ、本人や家族の検査が必要な場合もありますので、早急に接種医にご相談ください。

11

麻しん風しん第1期

麻しん風しん (MR) 混合ワクチン

★生ワクチンです。

対象年齢：生後12か月～24か月（2歳の誕生日の前日）まで

接種回数：1回

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。1歳から2歳の間に麻しんや風しんにかかる可能性が高いので、1歳になったらなるべく早く1回目の予防接種を受けてください。

第2期の接種は、小学校就学前1年間にある方が対象になります。（別途個別に送付します。）

麻しん又は風しんにかかったお子さんも麻しん風しん混合ワクチンを接種できます。罹患していない方のワクチン（麻しんワクチン又は風しんワクチン）で接種することも可能です。

麻しん (はしか) とは？

麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかります。主症状は発熱、せき、鼻汁、めやに、発しんです。最初3～4日間は38℃前後の高熱と発しんがでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失します。しばしば色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎（100人中1～6人）、中耳炎（100人中7～9人）、脳炎（1,000人に1～2人）があります。亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例です。予防接種を受けず麻しんにかかった方は数千人に1人の割合で死亡します。

副反応

主な副反応は発熱と発しんで、接種後13日以内に多くですが、1～3日で治癒します。

また、そのほかにショック、アナフィラキシー、脳炎等の重大な副反応がみられることがあります。

<麻しんワクチン>

接種後5～14日の発熱率が定期予防接種の中では比較的高く、麻しん様の発しんも認められますが、通常1～2日で消失します。また、熱性けいれん、脳炎脳症の報告もあります。

風しんとは？

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状で始まり、主症状は発しん、発熱、後頭部リンパ節腫脹などです。発しんも熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。

主な合併症としては、関節痛、血小板減少性紫斑病（3,000人に1人）、脳炎（6,000人に1人）などです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害のある子が生まれる可能性が高くなります。

<風しんワクチン>

まれに発しん、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節腫脹、関節痛などを認めることがあります。重大な副反応としてはアナフィラキシー様症状などが報告されています。

12

別紙① (表紙)

水痘

水痘ワクチン

★生ワクチンです。

対象年齢：生後12か月～36か月（3歳の誕生日の前日）まで

接種回数：2回

接種間隔：3か月以上の間隔をあけて2回接種

標準的には生後12か月～生後15か月に至るまでに1回目の接種を行い、1回目接種後6か月～12か月までの間隔をおいて2回目の接種を行います。

水痘：帯状疱疹ウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。麻しん、風しんなどの生ワクチンに比べ、その効果は少し劣ります。このワクチンを受けた者のうち、約20%は、後に水痘にかかることがあります。もしかかって軽くすむといわれています。

水痘（水ぼうそう）とは

水痘：帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。空気感染、飛沫感染、接触感染によって感染し、その潜伏期は感染から2週間程度（10～20日）です。

特徴的な発疹が主な症状で、かゆみを伴います。発疹は、最初は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり水疱（水ぶくれ）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治ります。発疹は身体の被覆部分（衣類に覆われているところ）に多い傾向がありますが、頭髪部にも現れます。

軽度の発熱を伴うこともあります。一般に軽症疾患ですが、免疫不全状態の患者さんでは重症となり、脳炎を合併することもあります。

副反応

副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹、局所の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）がみられます。まれに報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病等があります。

13

日本脳炎第1期

日本脳炎ワクチン（乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン）

☆不活化ワクチンです。

対象年齢：3歳※～7歳6か月の前日まで ※標準的接種開始時期（接種は生後6か月から可能です。）

接種回数：初回2回＋追加1回の計3回

接種間隔：6日以上（標準として6日～28日）の間隔をあけて初回2回接種後、6か月以上（標準としておおむね1年（11～13か月））あけて追加1回（万一間隔があいてしまった場合は、接種医にご相談ください。）

※第2期として9歳～13歳で1回接種を行います。

日本脳炎ウイルス（北京株）をベロ細胞（アフリカミドリザル腎臓由来化細胞）で増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し（不活化）、精製したものです。平成21年以降、定期的予防接種のワクチンとして認可となりました。

日本脳炎とは？

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接でなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され、感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタによる日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。

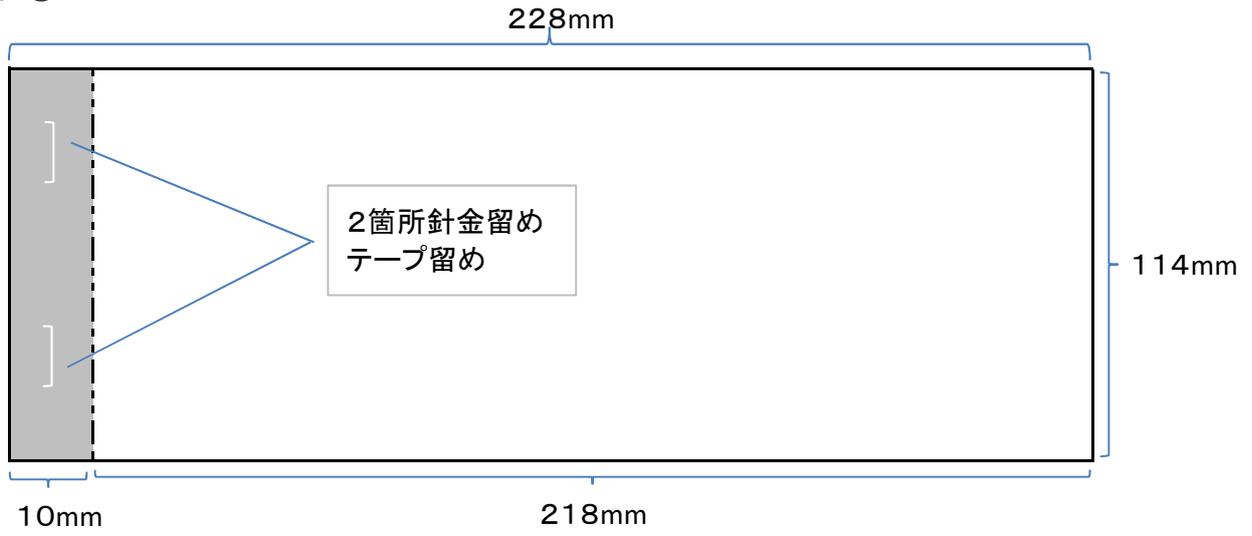
感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜの症状で終わる方もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す人がいます。

副反応

ほとんどが接種後3日までにみられ、主なものは、発熱、せき、鼻水、はれ、紅斑、じんましん、発しんなどです。なお、その他にショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応がみられることがあります。

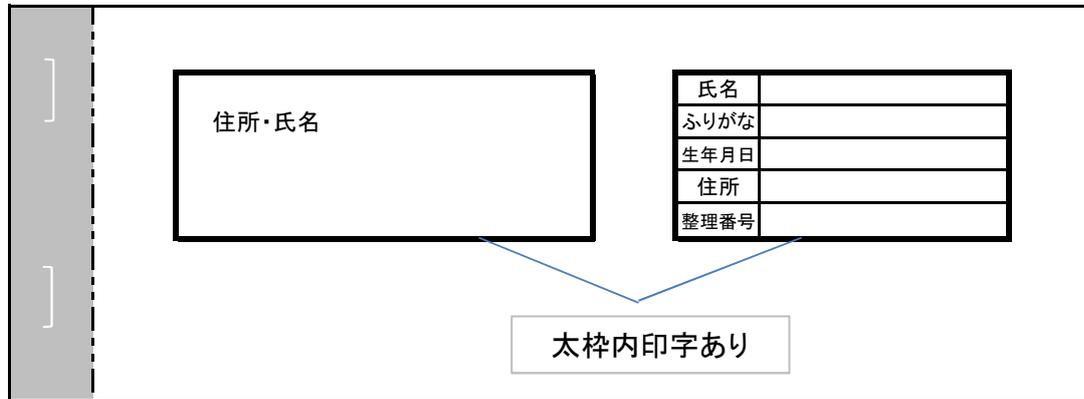
14

別紙①



※印字箇所

(表紙・接種券)



別紙②

(表)

218mm

太枠内印字あり

〇〇〇 予防接種 実施通知書 兼 予防接種券

住所・氏名	氏名	
	ふりがな	
	生年月日	
	住所	
	整理番号	

説明文

医師記入欄
(印字なし)

114mm

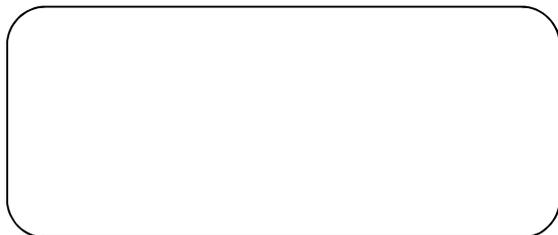
(裏)

予診票
(印字なし)

114mm

218mm

別紙③ サイズ: (1)定型外 縦120mm×横240mm
サイズ: (2)定型(長3) 縦120mm×横235mm



料金後納
郵便

〒920-8577

金沢市広坂1丁目1番1号

電話 220-2701

FAX 220-2231

URL <http://www4.city.kanazawa.lg.jp/23030/yobousesshu/index.html>

金沢市健康政策課

別紙④

(表)

148mm

住所・氏名 (印字あり)

料金後納郵便

接種券がない場合は、下記にお問い合わせください。

【お問合せ・予防接種券発行窓口】	【予防接種券発行窓口 (再交付等)】
金沢市健康政策課	駅西福祉健康センター：234-5103
金沢市広坂1丁目1番1号	泉野福祉健康センター：242-1131
電話220-2701	元町福祉健康センター：251-0200

100mm

(裏)

148mm

説明文 (印字なし)

100mm